

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時07分）

---

◇ 齊 藤 重 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、齊藤重君。

（8番 齊藤 重君 登壇）

○8番（齊藤 重君） 所感を述べ、通告書に基づき一般質問を行います。

衆議院選も終盤となり、いかなる結果となるか気になるところでございます。安倍前総理は夏ごろから前触れとして、地元山口の講演で少子化対策や子育て支援に力を注ぐと訴えていた。一方、首都圏においては40万人の待機児童解消のために、認定こども園の建設を約束するとも言っておりました。今にしてみれば、もはやこの時期に解散の意図があったのかなと推測されます。

地方創生への意気込みで、園児獲得に苦慮している地方にも何らかの形で恩恵のあることを願いたい。地方町村に対しては限界集落から消滅地域と公言し、悲観論をあおっている論者もいる。

私は、現実に目を背けることはできないが、何としても人口減少に歯止めをかけるための努力は我われの責務と実感しております。

選挙後の行方は定かでないが、自分たちでできることから先駆けて実行あるのみと考え、今回は大きく、少子化対策と子育て支援関連を議題をいたしました。

その1、現実問題として出生率向上には、既婚者に望む以外に方法はない。1人を2人に、2人を3人に増やしてもらうための施策が必要と考えます。

3人目以降への出産祝い金を100万円に増額する考えはないですか。また3人目以降について、子育てに伴う保育料や給食費等を就学終了まで支援する考えはございませんか。これがメインテーマでございます。

その2、現在3人以上を育児中の家庭で3歳児未満の幼児に対しても、上記に準じた支援が必要と考えますが、いかがですか。

その3として、多機能的な子育て支援センター設立の考えはございませんか。

その4、少子化問題は町の存亡に関わるものである。人口増進、子育て支援、学校教育に

力を注ぎ、人づくりへの投資の予算強化を図るべきと考えるがどうですか。これは基本的に人間社会構成の基本であります。

その5として、不妊治療費助成の促進について、不妊治療は医療費が高額のために途中で諦める人たちがいると聞きます。助成事業の更なる周知が必要ではないか。PR方法についてどのように考えているか。また医師からのあきらめの指示があった場合は別として、続けるように可能な限り続ける支援が必要ではないですか。この点についてもご回答願いたい。

その6番目として、婚活事業を実施してきたが成果があがっていませんね。男女の仲介役の存在確認と組織づくりで情報交換の場をつくる必要があると考えるが、今後の考え方をお聞かせください。この1から6までの点については、6項目については、目的の人口増を求めて提案であります。なんとか前向きに進めることを求めます。

大きく2つ目、計画中の町立幼稚園建設についてでございます。

幼稚園を1園に統合後の園舎建設場所を岩科とした中で、計画が定まらず父母が戸惑っています。なお、中川園の周辺事情があって、1日も早く岩科園に合流することを望んでいると、そういう声が多くありました。そのためには増築が必要との声もあります。その対応はいかがでしょうか。

2つ目、園児達を第一に考えるのが基本であると、園舎の完成が平成30年度以降になるならば、すぐにでもできる旧岩科学校を改築し、幼稚園としての施設整備を充実させることにより父母の理解を求める考えはございませんか。さまざまな意見があると思いますが、あえてこれを質問いたしました。

以上、これらについて当局の明確な回答を求めて、檀上からの質問といたします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 斎藤重議員の一般質問にお答えします。

1. 少子化対策と子育て支援について。

①「現実問題として出生率向上には、既婚者に望む以外に方法はない。1人を2人に、2人を3人に増やしてもらうための施策が必要と考える。3人目以降への出産祝い金を100万円に増額する考えは。また3人目以降について、子育てに伴う保育料や給食費等を、就学終了まで支援する考えは」②「現在3人以上を育児中の家庭で3歳児未満の幼児に対しても、上記に準じた支援が必要と考えるが」についてです。

子ども・子育て支援計画を策定するために実施したアンケートでも、希望する子どもの数は3人だが経済的理由で2人にしたいという回答が一番でした。

ご提案のように3人目の出産に100万円の祝い金を交付する市町もありますが、財政的な負担が大きすぎますし、貴重な町税は広く多くの人に配分することが基本と考えると踏み切ることを躊躇してしまいます。

ただし、他市町で妊婦健診や出産しているケースが多く、それに係る交通費等の分、他の市町の方より負担が大きいと思われるので、出産準備支援金的な事業を実施したいと考えています。

これについても財政的な負担が発生しますが、ロマン券などを利用することで町内商店等への還元にもなると思います。

③「多機能的な子育て支援センター設立の考えは」についてであります。

現在、児童館では「育児グループ・すくすく広場」、「松ぼっくりクラブ」など従来からの事業や新たに子ども服のリユースコーナーの設置など、育児中の方のニーズに沿った事業を展開しており、子育て支援センター的な存在になりつつあります。

そのために利用者も増加傾向にありますが、日によっては幼児から中学生まで、また付き添いの保護者まで収容するとかかなりの人数になり、現在の施設では十分なスペース確保できない状況になることもあります。

子ども子育て支援計画のアンケート結果や、幼稚園保護者との話し合いでも、子育て支援センター、子どもの一時預かり事業、子どもが安心して遊べる場所を望む声は大きいため、使用しなくなった幼稚園舎などを利用し、児童遊園地などを併設した子ども子育て支援施設の設置を検討してまいります。

④「少子化問題は、町の存亡に関わるものである。人口増進、子育て支援、学校教育に力を注ぎ、人づくり投資への予算強化を図るべきと考えるがどうか」についてです。

少子化は、日本全体の個々の意識、社会保障制度の弱体化、不安定な経済など様々な要因が絡み合って加速していくもので、当町単独でこれらを解決する特効薬はありませんが、学校教育に力を注ぎ優秀な人材を育てることで日本の将来が決まり、その効果が社会全体に広がるものと思われます。

当町は、子どもの健康や教育について近隣の市町には勝るとも劣らない施策を展開してきましたが、今後も子どもの健康維持、充実した保育、豊かな心と知能を育む教育に重点を置くとともに、その財源が確保できるよう各種産業が活性化するような施策を展開したいと思っておりますのでご支援くださいますようお願いいたします。

⑤「不妊治療費助成の促進について、不妊治療は医療費が高額のため途中で諦める人たち

がいると聞く。助成事業の更なる周知が必要であるが、PR方法についての考えを」についてです。

少子高齢化が進む中、不妊治療についても理解が深められ、助成制度も整備が進んでいます。

不妊治療に関しては病院での診察がきっかけになると思われ、治療が開始される場合は、助成制度について病院が説明する体制が整備されていますし、町のホームページへの掲載、また制度の改正があった場合などは賀茂健康福祉センターが広報することもありPR不足はないと思いますが、機会がありましたら健康福祉課が発行している「すこやかだより」にも掲載いたします。

なお、不妊治療を開始し、医療費の関係から途中で諦めた方の人数の確認はできておりませんが、平成26年度中に4人の方が制度を利用しています。

⑥「婚活事業を実施してきたが、成果があがっていない。男女の仲介役の存在確認と組織作りで、情報交換の場をつくる必要があると考えるが、今後の方針は」についてです。

数年前から、賀茂地域で連携した婚活や町単独の事業を実施しましたが、実を結んでいない状況です。

これは若い人の意識が大きく変化したことや、地域でも若い世代を応援する風潮が希薄になった感があり、それらも結婚する方が減少している一因かと思えます。

担当課でも今までの反省を踏まえ、単に出会いの場の提供だけではなく、若い方が出会う機会をサポートする人材育成や、個々の魅力を向上させるセミナーなどを企画したいと考えております。

2. 計画中の町立幼稚園建設について。①「幼稚園を1園に統合後の園舎建設場所を岩科とした中で、計画が定まらず父母が戸惑っている。1日も早く岩科園に合流することを望んでおり、そのためには増築が必要との声もある。その対応は」についてです。

幼稚園の一園化については、建設場所を旧岩科小学校プール跡に決め準備を進めております。統合後の園舎は新築を考えており、財源の一部に国の補助金を予定しておりますので、順調に事務手続き等が進んでも、完成までに2・3年は掛かる見込みです。

それに対し、聖和保育園が「子ども安心基金」の交付金をもらうことができ、幼稚園より早く建設が進む中で、岩科園への転園を希望される保護者もおられるかと思えます。仮に、新園舎ができるまでの間、岩科園を仮園舎的に一園で使用した場合、その間は中川園より若

干狭い環境で保育を行うこととなりますが、将来の幼稚園入園者数の見込みは40人前後で推移すると思われますので、非常に劣悪な教育環境にはならないと思います。

②「園児達を第一に考えるのが基本であり、園舎の完成が平成30年度以降ならば、すぐにもできる旧岩科学校を改築し、幼稚園としての施設整備を充実させることにより、父母の理解を求める考えはないか」についてです。

新園舎ができるまで順調に進んでも数年掛かるため、その間、子どもたちに待ってもらうことになり、大変申し訳ない思いがあります。

早期開園、廃校の利活用ということでは、一つの方法かと思いますが、幼児用への改修や建物の補強が必要になります。それらの費用や保育園が新築であることを考えますと、先ほどの質問で回答しましたが、私は統合幼稚園の園舎は新築にしてあげたいと考えております。

以上でございます。

○8番（斉藤 重君） 一問一答でお願い致します。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○8番（斉藤 重君） まず、町長に伺いますけれども、町長は20年度まで人口7千人を維持したいと・・・、自然的な流れでそこまでくらはもつだろうという判断があるかもしれませんけれども、現状でいくと、そのあとまたずんずん下り坂ですよ。7300数人しかないわけですから、それまではなんとかもつだろうという考えがあったのかなと思いますけれども、その現状維持、これは現状維持にどのような形で具体的にこうすれば、こうなるだろうという策、もし考えがあったら、ちょっと述べてください。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり人口を維持するためには、やっぱり雇用、働く場所をつくるのが一番だと思っています。

それで、松崎町として雇用の場を増やすというのは、なかなか大企業もありませんし、企業誘致もなかなか難しいと思いますので、やっぱりこの観光を、私が言っている第一次産業を主体とした観光地を活性させるか、また、いま桜葉等の組合ができあがっています。また桑葉等の組合ができたそうで、そういう農業を6次産業化して雇用を増やしていくしかないのかなと考えているところでございます。

○8番（斉藤 重君） だいたいそういう考えでいると思いますけれども、まず私が指摘するように、まず子どもを産んでもらえなければ増えないわけですね。雇用は増えて所帯持ちが来着的な考えも当然ありますよね。もちろん後あと出てくる結婚の促進ももちろんですよ。

でも、その前に現状でいまがんばってくれている、町内で。先ほども町長が言った「子どもは何人欲しいですか」といったら、3人まで欲しい。でも、経済的などということ……。それをフォローするためにはやっぱり行政としてやるべきことはそこにあるんじゃないかと思えますよ。

それと、もう1点は、松崎は一番人口が少ない少ない……。いろいろ……。一番小さいが自慢くらいの話になるような会話が飛び交うわけですが、そういう小さい町だからこそ、人口が少ないからこそ何らかの形で大きなことをして、町長が決断して出産祝い金を100万円にして、それに伴う教育費、給食費ということで新しく生まれる子どもに対して、そういうメインをぶつけていけば、外部からの移住者だって仕事がないからということじゃなくて、いま通信圏もいろいろありますが、そう思うけれども、その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 齊藤重議員の気持ちは、私にも十分に通じているわけでございます。それで、松崎町の子育て環境支援に関する満足度というアンケートがありまして、その中に満足度が低いというのが12パーセント、やや低いが30パーセント、普通が44パーセント、やや高いが9パーセント、高いが1パーセント、このような結果が出ているわけです。

また、未就学の子どもたちに聞いて、いま一番、未就学の……。両親に聞いて、何が一番必要かというようなことがあるわけですがけれども、やっぱり未就学の部分は、1位、遊園地、2位、経済的支援、3位が子ども医療機関、また就学児童に関しては、1位は経済的支援、2位が子ども医療関係、それで3位が児童遊園地と、このようになっているわけですがけれども、このようなアンケートが出ていますので、このようなことをうまく利用しながら、活性化するためにやっていきたいと今考えているところでございます。

○8番（齊藤 重君） 消極的にそれとなくやるようなことでは人は集まらないし、増えないですよ。一番大事なことは、結局何か魅力かということをして、先ほども言うように3人欲しい、4人欲しいという方には、現にそういう可能性がある人を頼らなければ、現実的にできないでしょう。子どもは増えないでしょう。そこへ目を向けなければだめじゃないかと思うんですよ。間接的にいろいろなことを言ったって、それで実がなるとは思わないけれども、もう1点、その点。端的に言ってください。

○町長（齋藤文彦君） 重議員みたいに3人目出産に100万円というようなことをやるとすれば、非常に派手でいいのかなと私もいろいろ考えるわけですがけれども、この前ある高校で東大に合格したら100万円というような話もございまして、なかなかお金でやるのは厳しいのかなというような感じでございます。ただ、先ほど言うみたいに松崎の皆さんが欲しているの

が、こういうことがありますので、そういうことを優先的にやっていくのが、私は一番いいのかなと考えています。

○8番（斉藤 重君） 今ちょっと町長、100万円出せば派手でいいとかと言うけれども、そういう問題じゃなくて、実質的にそういうことへの思い切った施策、「お、やるな」ということを何か見せて結果を出さなければだめなんですよ。そういう思いも必要ですよ。いろいろと財政面とかいろいろ言うけれどもやろうと思えばできるわけでしょう、と思いますよ。

そこで、先ほど大まかな回答はなされていますので、それぞれずいぶん時間が過ぎるのが早いけれども、そういう点でこの点については、そういう考えの発想のもとにもっともって人を増やそうという感覚で人口を増やさなければ、結局交付税の算出だって人口対面積的な問題で、結局じり貧になっていくでしょう。何かプラスアルファにもっていくようにするには、人口を増やさなければならない、産んでもらわなければならないんですよ。そういうところで人口増の問題はどうですか。ちょっと簡単に言ってください。時間がない。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり町政は結果で、結果は数字で表れますので、私もそういうことは考えないわけではありませぬので、いろいろ目立つといいますか、活性化するようなことを考えているわけでございます。

○8番（斉藤 重君） そういうことを求めます。前向きに、思い切ったことをやってくださいよ。結果を出す町長になってもらいたいと、非常にそれを望みますよ。

それで、議長、関連ですので、一言いいですか。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○8番（斉藤 重君） 関連ですので、一般的に義務教育については、なんとかいろいろと細かい、2人、3人目についてはいろいろと町もやっています。支援していますね。ということで、なんとか義務教育についてはやっているけれど、高校、大学になると非常に経費もかさむと、大学の経費も高いなど大変なところがあるんですが、奨学金の上乗せ的な問題について、そういうことをもっとがんばって出してやるとか、その上で地域に帰ってきたら、その奨学金は返さなくてもいいよと、根付いたものにするためにという、その考えについてお聞かせ願いたい。

○町長（齋藤文彦君） 松崎は奨学金に対してかなり手厚くやっぴまして、教育資金利子補給事業というので90万円、それで奨学金貸与事業というので230万円、これをやっています。

他の地域に比べて、松崎町は結構手厚くやっているとと思います。ただ、帰ってきて、一応重

議員が言うようなやつは、今は考えていないわけですが、そのようなことは今のところ考えておりません。

- 8番（斉藤 重君） 考える必要があるんじゃないですか。結局、地元に来なければ、何もならないわけだよね。例えば、先ほどなんか同僚議員も言っていたような気がするんですが、後継ぎとか、その専門学校的なもので家業を継ぐとか、農業関係は一番手っ取り早いわけですが、職人にしろ何にしろ民宿にしろ、その関係、観光業にしろ、そういった支援に対するものも大事じゃないかなと思うんですよ。そういうことも含めて、奨学金関係について応援するという意味合いで、含めた考えでもってもらいたいです。これはあれは結構です。

そのあとの子育て支援センターという設備は、河津町とかなんかも相当推し進めていますけれども、ないのは松崎だけだという声もありますけれども、やっぱり紙面でいろいろ、河津が4年後に完成とか、ずいぶん大がかりなことをやりますけれども、こういうものじゃなくて、もっと使いやすく、言葉はいろいろありますね。子育てサロンとか、いろいろあるけれども、これに準ずるようなことをどこか特別1箇所ぽつと、子育て支援センター的なものをちゃんと構える考えはございませんか。今のまま、先ほど述べたような考えだけで終わるつもりですか。

- 町長（齋藤文彦君） 檀上で答えましたけれども、設置を検討してまいりますと答えたわけですが、いま松崎町には、いろいろ空いている施設がありますので、松崎町の公共施設整備検討委員会の中で話し合っ、新築はできないと思いますけれども、そういう施設を利用して多機能的な子育て支援センターの設立というのは、やっていきたいと思っています。

それで、図書館の・・・、高柳議員の時に、図書館の話が出たわけですが、いま本をたくさん持っていて、ごみ捨てにいっぱい捨てているようなことをよく見かけるわけですが、本を提供してくださいよというようなことをやれば、松崎町でもたくさんの本が集まると思いますので、子育てセンターと図書館とをドッキングさせるようなやつを何かできないかなというようなことも考えているところでございます。

- 8番（斉藤 重君） そういった一つの教育の場については、子育て支援を含めて力を注ぐと、そういうことを後ほどまたこれは出てきますけれども、このセンターに関するような、必要なものについては大いに力を入れてもらいたい。それを求めます。

この人づくりという問題ですが、結局学校の教育とか、この少子化問題というの

は、町の存亡ということで、人口、子育て支援、学校教育等の人づくり投資の予算、先ほど町長も言っていましたけれども、以前から松崎は教育については非常に熱心だと前の指出教育長も言っていましたけれども、まだまだ現状だね。まだまだもっと思いやりがあってもよくはないかと、それを含めた、先ほど言うようなことも大事だと思いますよ。子どもへのあれを大切にしてもらいたいと、そういうことを求めたい。

次の不妊治療の問題についてですが、統計も私は見えていますけれども、ちょっとさっき町長の回答にもあったように、この全体的にはほかの市町と比べて劣るところはないような気もしますけれども、何回も重ねてもだめな人は医者からだめですよという指摘も受けるというのは、担当から聞いたりしていますけれども、それよりも何か途中であきらめる。高額、治療が高いものだから、あきらめるという人が多いと。こういう方にもっと掘り起こした、がんばってください的な思いやりですか、アピールする、そういう考えはないかということなんですが、その点はいかがですか。担当でも結構です。

○健康福祉課長（高木和彦君） 県内この事業についてはいろいろやっているわけですが、場所によっては1回限りですとか、2回というのが通常です。

松崎町につきましては、この回数制限を設けませんで、こういう子どもを産みたい方については何回でも治療を受けてもらいたいという体制は整えてあります。

○8番（斉藤 重君） この点はやっぱり何か後ろめたさというより、なんにも恥ずかしがるというより、あれすることじゃないけれども、なんかそういう人間的な・・・、そういう方があるように聞いております。

ですから、それをもう正々堂々と「よし、がんばろう」というような思いにさせるための考え方、課長、何かないですか。

○健康福祉課長（高木和彦君） これについては、やはり相談があった時に、どれだけやわらかく行政がその方を助けるかという姿勢が見えるかというところにあると思います。そういう点でも、この関係につきましては、うちの方の保健師がこれに対応しておりますけれども、そこらの対応についてはやわらかく、そういうことを心がけて毎日対応しております。

○8番（斉藤 重君） そういう点、心してやってもらいたいと思います。

次に、婚活についてですが、過去数回やったことも聞いておりますけれども、成果が全然あがりませんね。町長も残念がっておりますけれども。

そこで非常に私は、いろいろそういう話をあるところで聞く中で、昔よくそういった世話を焼く人、世話焼きばあさんのような・・・、いい意味ですよ、お世話を焼いてくれる方が昔はい

ましたよね。そのために縁付きが多く、大変助かったような実績があるわけですが、あるところで偶然にもそういう方に会ったんですよ。3人も4人も頼まれている。相手はどこどこにいないかとか、そういう方がいて、一人でやってもなかなかチームワークはできないわけです。一人ですからね。誰かそれに準ずるようなチームワークができれば、非常にいいなど「何々がんばり隊」とか何か名前を付けて、町からの声を添えてやってやったらどうかなどということで、これを提案したんですよ。

これも一つのやっぱり結婚促進で、もちろん人口増進、大きな一番の要因になるわけです。その点何かそういったいい思いつきというより、それならこうするよ的な、町長の立場から何かあったら、聞かせてください。

○町長（齋藤文彦君） 松崎町も婚活はかなりやっているわけですがけれども、私も花束を、持って用意していたわけですがけれども、一度も花束を渡すことができなくて、非常に残念なわけですがけれども、本当にやっぱり重議員が言うように、本当に世話好きな人がいれば、本当にそれが一番近いと思うわけですがけれども、私はまだそういう方を知りませんので、そういう人たちが町の中で集まってくれば、それなりの効果を発揮すると思いますので、もしよかったら、そういう人を教えていただきたいなと思っているところです。

○8番（斉藤 重君） 私も世話焼きじじいじゃないけれども、それとなくそういったことも心していますよ。なかなか難しい点もありますが、やはり縁は異なるもので、ほいっとくつくと怒られますけれど、そういう添い合う人もいるわけですよ。ですから、そういう気持ちがないと、そういう人を偶然にもあって町でもこういう考えですよ、頑張ってください的なものをつなぐために、こうやって出したわけです。知っていてももらいたいために。そういうことで、やっぱり世話焼きばあさん、これは福の神と呼ばれておりましたけれども、そういう存在があるということは非常に心強く思ったんですよ。だから、何かそういう形になって、こうやれよということで町も応援するというような形をとってもらいたい。そういうことを心してください。

次に、大きく2つ目ですが、幼稚園問題についてですが、様々な状況変化がある中で、先ほど同僚議員からも聖和保育園の問題が出ましたけれども、やっぱりああいう状況の中で、トントン、カンカンとか・・・、まあ、害にならないようにやりますとかと言っても、父兄としては、「そうだよな」「それは当然だよな」というような雰囲気もあるわけですよ。ああいう仕事場の雑騒とした中でね。そこで、「岩科の方に移りたい」「早く行きたい」という声が現場からあると、そういうことを聞いたわけですよ。それで、聞いたわけですがけれど

も、計画は計画であったにしても現状は現状で、現在そういう状況だから早く岩科に行きたい、それについては何とか部屋も大丈夫だというけれども、改めてその点をちょっと聞かせて。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ話し合った・・・、先ほど教育委員会の局長の方からも話があったけれども、保護者の中でも残りたいとか、岩科園に行きたいというようないろいろな意見があるそうですので、私たちは強制するわけにはいきませんので、何とも言えないわけですが、ただ、私としては、保育園ができあがってから幼稚園ができあがるまで、どうしても時間差がありますので、私は木造で町産材をそれなりに使っていきたいということを言っていますので、そうすると、若干遅くなるのかなというところがあるわけですが、その時間差をなるべく短くするように早くやっていきたいと思うところでございます。

○8番（斉藤 重君） 町立の幼稚園については、当初は平成27年に造るよと、そういう計画だったよね。それなりにいろいろな事情があったにしろ、町長を責めるわけではないけれども、地場産で地元の杉、ヒノキを主体に日本一立派なものを造るよとはっきり言っていますね。それはいいことですよ。いいことだけれど、言ったらやらなきゃいけないというがあるので、でも、それが現実にこういうふうになっているけれども、その段取り的な問題、その気配がないんですが、建設に向けての一つの材料配分的な考えは、どう思っていますか。どう考えていますか。聞かせてください。

○教育委員会事務局長（石田正志君） タイムスケジュール的なものですが、町長の回答にもありましたように、いま国の補助金をもらえるような算段をしている関係で、その事務的なスケジュールですね。だいたいそれは3か年くらいかかるだろうということで、一般的に。ですから2・3年ということで町長はお答えした次第でございまして。それに実現できるようにいろいろと県とかを通じてお願いをしているような状況でございまして。

○8番（斉藤 重君） その3年の間という、3年の期間があれば十分材料も地場のものが切れるという考えですか。そういう用意があるわけですか。その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 順調にいけば、そうなるわけですが、なかなか話を聞いていると難しいのかなというようなところで、いま悩んでいるところがございまして。

○8番（斉藤 重君） それが一つの地場産を使うという意味合いからいくと、今から切り出す的な・・・、まあ、3年あればできるけれども、現実的にそういった心づもりが、もう一遍聞くけれども、あるんですかないんですか、地場のものを使うという。

○町長（齋藤文彦君） 地場を中心に使うというのはなかなか厳しいというところがあると思

うんですけれども、やっぱり地場のやつは使いたいなと思っています。

それで、聖和保育園の建築についていろいろ相談すると、やっぱり木造にしても構造計算が非常に難しいと、そして補助金をもらうには、材料の強度が明確でないと非常に難しいと、そしてやっぱりJASマークを使わなければいかんとか何とか、いろいろ制約がございまして、非常に難しいところがあるわけですがけれども、やっぱりどうしても造るんだったら、やっぱり松崎の町産材を使いたいと思いますので、それなりの使うところがあると思いますので、いま一生懸命やっているところです。それが本当に時間がずれるということで、非常にいま悩んでいるところでございます

○8番（斉藤 重君） 結局そういう声を出した以上は、100パーセントそれを使うことは求めないわけですがけれども、いま言うように主だったところ、どういう形になるかわからないけれども、そこへはやっぱり松崎の木材を使う努力、いま言いましたけれどね、たまたま。そういう努力は必要じゃないですか。そういう形でせめて納得しなければならないのかなと思ったりしますけれども。全部なかなか材料を出してというようなことになると、今から職人集めも大変だしね。現実問題でしかできないんじゃないかとおれは思うんですよ。そういう、極力努力をしてやってください。

次に、完成年度は、結局いま回答・・・、最初からありますけれども県の補助金対象的なもの・・・、3年かかるということになると、30年ですか。結局30年には完成する自信はありますか。その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 順調にいったということで、自信というのは非常に難しいわけですがけれども、それに向かっていくしかないなと思っています。ただ、28年度には聖和保育園が出来上がるわけですがけれども、それはやっぱり時間差が本当に気になっているわけですがけれども、なるだけ早く幼稚園を建てるようにやっていきたいなと思っています。

○8番（斉藤 重君） 得てして、あくまでも予定は未定というからね。いつになるか、私はそれを懸念しているわけですがけれども。

そこで、私が、今さらと言われるかもしれないけれども、あえて出すのが、結局先々何年も子どもらを待たせるならば・・・、赤ちゃんも生まれてから3年経てば3つになるのは当たり前前のことですがけれども言われていますね。そういう中で、もう多くの子どもたちがそのままの状況でいるならば、先ほど改築工事が4億円かかるとかと言うけれども、それは口実ではないかと思うけれども、それならばということなんです。それならば旧岩科小を・・・、

非常に環境もいい学び舎じゃないですか。耐震補強だってそんなに悪くないし・・・、そこでそういう考えはないですかというんですが、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 今そういうことは全然考えていません。

○8番（斉藤 重君） じゃあ、あくまでも新築を主体にやるということですね。あえて言うけれども、私はね。一般社会でもそうですが、事を成すには、事業をやるには、やるときは案外簡単だけでも、やめるときは非常に度胸もいるし、大変なんですよ。でもそれが大切なときがありますよ。わかりますね。行政も同じだと思いますよ。そういうことをああ言っちゃったからとか、例えば、議会も、議決ももらったしとか、そういう感覚で自分の腹をどっかにあるけれども、それはちょっとなというようなところはありますか。あるか、聞かせて。

○町長（齋藤文彦君） 私は、聖和保育園が新築でいくと、そして、やっぱり幼稚園も新築でいくというのは、もうはじめから私は考えていましたので、新築でいきたいなと思っているところです。

○8番（斉藤 重君） それならそれでいいでしょう。ぜひとも・・・、幼児の減少も当然ね、何かのときに誰か担当が言ったけれど、松崎の園児が聖和を含めて80人くらいになるとかということを書いていましたね。そういう目標、何に的を絞るかというのは非常に難しくなるわけですね。そのためにも先ほど、一番最初に言う・・・、子育て支援的な出産を多く、子どもを多くしてもらうための・・・、可能性につなげたらどうかということに結びつくわけなんですよ。

この旧校を使うということについては、私はいかがかということで求めた、攻めたわけですが、それはそれで納得したけれども、いま一度聞きますけれども、出産祝い金また子育て支援に対する支援を、思い切った形でやる気持ちが、努力する考えはございませんか。もう一度聞かせて。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり本当に子どもの笑い声とか、鳴き声とか、騒いでいる声が聞こえない町は本当に何というか、活性化のない町だと私は思っていますので、その100万円というようなことはなかなかできないと思いますけれども、それなりに身丈に合った政策をしていきたいなと、やっていきたいなと思っています。

○8番（斉藤 重君） 先ほどからいろいろ述べる中で、今、最後の言葉を私は信じるわけですが、そういう努力、子育て支援、幼児教育とか、学校教育に対しては、松崎のメインテーマとして、やっぱり観光も大事、全て大事ですよ、物事は。大事だけれども人間構成、

人間をつくるにはやっぱり教育なんですよね。これは言うまでもないですよ。そのところをちゃんと腹を決めて、肝に銘じて町長として、それだけは決断して、「おい、やるぞ」という・・・、そればっかじゃないですけども、もっと太っ腹で事を成してくださいよ。そういうことを求めますよ。

まとめに入りますけれど、やっぱり同じようなことですけども、人口減少のあおりは地方交付税とか、先ほど課題に入れましたけれども、わが町が100年、200年、結局、安泰でつづがなく続いて、あとの人たちに後世に引き継がれるという努力をここで示してもらいたい。そのためには、やっぱり今まで・・・、先ほどからずっと言っていることが大事じゃないですかということなんです。それについて、最後・・・、覚悟というより、自分の気持ちを述べてください。

○町長（齋藤文彦君） 私はいつも国の基は人、人の元は教育だと思っていますので、教育に力を入れて、松崎の子どもたちが本当に増えて、元気になるような町にしていきたいと思っていますので、今度の予算編成でそれなりの、皆さんの目に見えるような形にしていければいいなと思っているところでございます。

○8番（斉藤 重君） それを期待して、私の質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で、斉藤重君の一般質問を終わります。

---